

# 国公立大前期日程の受験状況

文部科学省は、2月25日より実施されている国公立大の前期日程の受験状況を発表した。1日目第1時限目の受験対象者数は242,074人で、このうち受験者数は227,524人と14,550人が欠席した。欠席率は昨年より0.2ポイント上昇し、6.0%となった。〈図表1〉は過去5年の欠席率の推移である。国立大、公立大ともに欠席率は上昇傾向にあることがわかる。

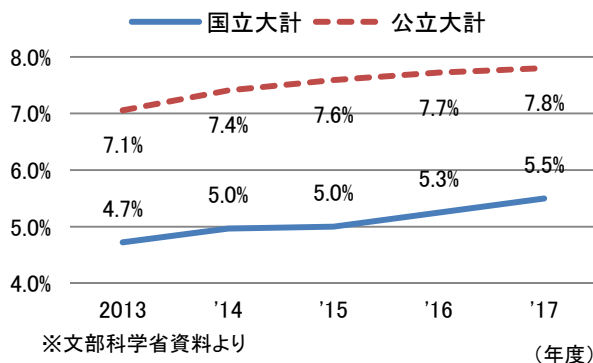
大学別にみると、最も欠席率が低かったのは一橋大で、欠席者は16人であった。そのほか、例年欠席率の低い東京大、東京芸術大、京都大、京都市立芸術大などが、今年も上位に挙がっている。

一方、最も欠席率が高かった大学は兵庫教育大で19.9%であった。次いで上越教育大、宮城大、愛媛県立医療技術大などが続く。欠席率が高い大学も例年と同じ顔ぶれが多くみられる。なお、欠席率が1割を超えた大学は159大学中34大学で、昨年の20大学に比べ大幅に増えた。

前期日程を欠席する背景は、主に二点挙げられる。一点目は、併願した私立大へ合格して受験を取りやめるというケースである。例えば横浜市立大や首都大東京は首都圏の難関私立大との併願者が多く、例年欠席率は1割を超える。

二点目は、推薦入試に合格したために、併願した前期日程を欠席するというケースである。近年国公立大では推薦入試にセンター試験を課すケースが増えている。センター試験を課す推薦入試の場合、合格発表日が2月上旬のため一旦一般選抜に出願することになる。そのため、センター試験を課す推薦入試の募集人員が多い大学では、一般選抜の欠席者が多くなる傾向にある。例えば兵庫教育大は入学定員160名に対して、推薦入試の募集人員は58名（入学定員の36.3%）、上越教育大は入学定員160名に対して、推薦入試募集人員は50名（同31.3%）となっている。

〈図表1〉国公立大 前期日程欠席率推移



## ●国公立大前期日程1日目第1時限目の受験状況 (文部科学省資料より)

### 〈全体状況〉

	2016年度				2017年度			
	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率
国立計	189,072	179,144	9,928	5.3%	187,488	177,171	10,317	5.5%
公立計	54,263	50,072	4,191	7.7%	54,586	50,353	4,233	7.8%
国公立計	243,335	229,216	14,119	5.8%	242,074	227,524	14,550	6.0%

### 〈欠席率の低い大学〉

大学名	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率
1 一橋	2,548	2,532	16	0.6%
2 東京	8,694	8,594	100	1.2%
3 帯広畜産	425	419	6	1.4%
4 東京芸術	1,477	1,456	21	1.4%
5 京都	7,670	7,529	141	1.8%
6 京都市立芸術	537	527	10	1.9%
7 京都工芸繊維	1,507	1,474	33	2.2%
8 沖縄県立芸術	137	134	3	2.2%
9 北海道	5,537	5,405	132	2.4%
10 宮城教育	496	484	12	2.4%

### 〈欠席率の高い大学〉

大学名	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率
1 兵庫教育	236	189	47	19.9%
2 上越教育	251	206	45	17.9%
3 宮城	608	504	104	17.1%
4 愛媛県立医療技術	147	124	23	15.6%
5 群馬県立女子	465	394	71	15.3%
6 徳島	2,568	2,178	390	15.2%
7 島根県立	835	711	124	14.9%
8 鳴門教育	177	151	26	14.7%
9 横浜市立	2,432	2,086	346	14.2%
10 首都大東京	2,339	2,030	309	13.2%